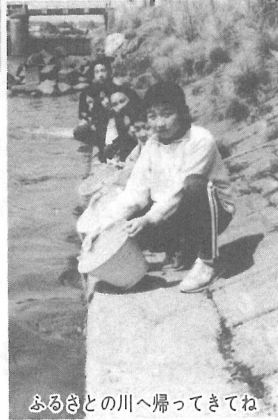


4年後の再会を約して

—横芝小がサケを放流—



卵から観察できてよかった!



ふるさと川へ帰ってきてね

「みんな育てたサケが、こんなに大きくなりました。4年後に、栗山川に帰って来るのを楽しみに放します。」と、横芝小学校5年生の代表9人が、3月23日、サケの稚魚を放流しました。

今回放流された稚魚は、県栽培漁業課からとどいた卵を5年2組の子どもたちがふ化させたものです。初めて取り組んだサケのふ化。エサの量や水の管理など大変苦労したそうですが、放流の日、子どもたちはその苦労も忘れ、海に向かって泳ぎだす小さな命をじっとみつめていました。

秋葉正英教頭のコメント

命の誕生、そして大切に育てる。何ものにもまさる勉強ができたと思います。ふ化の瞬間、子どもたちの目は輝き、感動したようでした。水槽も魚の成長に合わせて大きくすると、もっとよかったですね。これからも続け、多くの子どもに体験してほしいと思っています。

楽しく勉強してまゝす

公民館英会話クラブ

くらぶ紹介 ①

英会話を習って海外旅行にノと、公民館の「英会話教室」の受講生が集まって発足したのが二年前、先生は元航空会社でアシスタントパーサーをしていた春山まき子さん(南部2)。現在会員は十六名。

最初はいいさつから始め、テキストに沿って勉強しているが、今はその中に出てくる言葉を使って、先生独自の台本で「買い物シーン」を勉強中。「おいくらですか。もつと安くしてください。」「試着室はこちらです。」「実演を交え楽しく学んでいる。最後の10分間は、英語の歌でしめくる。

先生は、「とにかく、間違ってもいいから自分の意志を相手に伝えること。間違いないで問題ではない。英語を言葉にだすことです」と指導しているようだが、会員は「頭の中であらまってしまうなか

か(言葉が)でてこない」と語る。「昨年は文化祭で、桃太郎」の英語劇を発表したが日本の準備やら小道具づくりで大変だった。見に来ていた人に「また、やるんでしょ」と声をかけられたので、ぜひやりたいと思う。せっかくの発表のチャンスですもの」とも。

病院でレントゲンの仕事をしている会員の井嶋さんは、「仕事の関係で外国の人が来ると『息を止めて』『動かないでください』と英語で話すすんですよ。そうすると、『日本語わかります』といわれちゃう。せっかく学んだ英語をどんどん使いたいんだけど、海外旅行をして思いっきり英語を使

- 練習日時 毎月第1・3金曜日 午後7時30分～9時
- 入会希望者は、町文化会館(☎1351)へ。



なごやかな雰囲気気分はすっかり国際人